

## METEOROLOGICAL COLLEGE

ASAHI-CHO, KASHIWA, CHIBA-Pref., 277 JAPAN

Some Characteristics Of The Concept Of Creation In The Quran  
— especially on the recurrence of creation —  
( Part Two )

SHUNSUKE YOSHIOKA

The unique expression, yabdau al-khalqa thumma yuiduhu , which is repeated six times in the whole Quran, might be a key-sentence which reveals a secret of KHALQ (creation) of Allah.

First, we will show the decisive importance of this expression in the Quran, then secondly proceed to the examination of its various possible meanings including "return" , "resurrection" and "recurrence".

Thirdly we will show the symmetrical relation between "creation" and "sustenance" , and after analyzing KHALAQA (to create ) , we will come to the

クーパーニに見出される《創造》概念の特色——創造の反覆を中心とし、こゝに——  
[2]

吉岡俊輔

(四) 一定の表現の《創造》に与ふる位置

我々が問題にしているのは一定の表現がア  
ッラーによる創造の業の何れがどの程度の重

要性をもち、ていよのかがこゝで検討してあ  
 った。

10章34節(35)に、『云え、「汝等がアッラ  
 ーと同列に配していよもこのうす一律誰が創  
 造と始めて、それかすそれともとに戻すだ  
 うか」と、云え、「アッラーにそ創造と始め  
 て、それかすそれともとに戻し給う、どうし  
 て汝等は迷わされてくまうのか」と。』とあ  
 る。例の表現が二節では(そ(て二節だ  
 け)2ヶ所ある。二節の中のアッラーと同

別に配するところのほくろアーニ独得の表現  
 で、アッラーの他に何にかと神と可なりと  
 意味である。つまり汝等人間がアッラーの他  
 に神様だと思つて崇めたてまつ、ていふよ  
 うなものさう、一体どんなものが創造と始  
 めて、それからそれをもとに戻す（ところの  
 ）。そんなものは何のぞあつてアッラーだ  
 けが創造を始めて、それからそれをもとに  
 戻す（ので何にか）ところのが二の節の趣旨  
 である。ここに注目すべきことは、二の一定

の表現が示してゐることは、アッラーとく（か  
 もアッラーだけと）きつてもきつない事柄ど  
 あると主張されるところ点である。アッラーだ  
 けに属する事柄、アッラーだけが持つ力、  
 あるものがアッラーであるのかわい  
 の目安とされるところ点である。クルアーンに  
 於いては、アッラーは何よりも創造を始めて  
 それからそれをもとに戻す御方として  
 えられたい。創造を始めて、それから  
 ともとに戻す作用そのものがアッラーが

としえうかて いるのである。また 30 章 29 節 (2  
 6) では、「彼 (アッラー) = その創造を始めて  
て、それかゝるものとに於て (給)。 して  
 これは 彼 に とつて 最も 容易 なる こと である。す  
 ことに 天 と 地 の あり だて (思へば 得る) 最  
 高 の 階 級 は 彼 に あり たり。すなわち 彼 の 力  
 強き方、聰明なる方である。』と述べら  
 れて いる。29 節 には 例 の 表現 の 他に 是れは  
 彼 に とつて 最も 容易 なる こと である といふ 重要  
 な 一語 がある。例 の 表現 が 示されて いる こと

はアツラーにとつて最もやさしい (ahwanu) のだといふ。なにもこれはアツラーの御業に難易度の点で諸段階があつて、しかしかゝることはアツラーにとつては難かしくいへぬ。最も得意とされる分野であるなどといふわけではあるまい。アツラーのなされる御業に難かしくいふだの易しくいふだのと言ふもあつたのであつた。さういふことは完全に承知の上でなつかつた。この節には ahwanu といふ (形は比較級で意味は最上級の) 言葉を用いていふので



ある。これは例の表現で示されるニヒが如何  
 に大切なニヒであるか、アツラーの御業と  
 えば即ニヒニヒであると言われ、強調  
 されたニヒに他ならず。アツラーにとつて  
 最もやさしいとは、アツラーにとつて最も自  
 然なニヒニヒである。まさにはそのニヒが  
 わばアツラーにとつて唯一最大の仕事であ  
 るとニヒニヒである。かくして創造を始めて  
 ．．．それかゝそれをもとに戻すといふニヒの主  
 体が即アツラーと呼ばれるものなるのである



。この節は先にあげた10章34節(35)と全く同一の趣旨のものであすが、このように存記述がグループーションに他でも繰り返しててくるのであるとて、このことは例の一定の表現が如何にアッラーにとて決定的に重要であるか、しかばアッラーの定義とみなされ得るほどのものであるかを示すものであると"え"了。

(五) 一定の表現のとり得る意味